

「第2回アドバイザー会議」における質問内容及び回答内容

調書番号:12 事業名:研修・展示会開催事業費

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
<p>諸平アドバイザー</p>	<p>新品種比較展示会の具体的な方法は、例えば、新品種の苗を育てて行うのか。</p> <p>展示会に行き、その場で相談や栽培指導が受けられ、クリスマスエリカや来年度に導入する新品種が作られるということか。また、珍しい品種ということで、収益の増大を目指しているのか。</p> <p>目標は花き生産額の増加で、研修会や講習会に参加することで、技術向上につながり、目標を達成するとのことだが、回数も多く、参加するのに大変なのか、1回あたりの参加者数が少ないと思うが、展示会と併せて行うなどできないのか。</p>	<p>課長・原 昌司</p>	<p>花き生産者が新品種の導入にあたり、県が種苗会社と連携し、有望な品種として育成したものを比較検討できるまでに育て展示を行い、生産者が選択できるよう情報提供を行っている。また、地域にあった品種や作りやすい品種など技術情報の提供も併せて行っている。</p> <p>そのとおりである。</p> <p>開催場所の拠点は北杜市の明野にあるが、それ以外でも現地へ行って指導するなどより多くの生産者が最新の情報を入手できるような方法を取っていきたい。</p> <p>花き生産者は他の分野と違い人数も少ないため、より多くの生産者に参加してもらえるように工夫したい。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
<p>諸平アドバイザー</p> <p>五味アドバイザー</p>	<p>活動指数も参加者数で良いのか、疑問ではあるが、参加しやすいやり方を考えるべき。研修・展示会開催事業として「見直しなし」にはできないので、もっと柔軟に考えてほしい。</p> <p>県内の花き専業農家数は。(大手を除いて)</p> <p>生産額は山梨県全体としてのものか。</p> <p>花に費やされる消費額が減っているようだが、生産者は経営的に成り立っているのか。</p> <p>研修会や新品種の研究、展示会で、情報提供を行い、生産者の質を高めることで、経営が成り立つ農家が増えるのか。</p> <p>参加者数の目標値が伸びていないが、最終的に県として150から200件の農家を対象に、どのくらいの目標を考えているのか。</p>	<p>課長・原 昌司</p>	<p>花き生産者により一層、意見交換を行い、対応していきたい。</p> <p>現状150戸程度と思われる。</p> <p>そのとおりである。</p> <p>バブルの時代はもっと多くの専業農家があったが、言い方は悪いがノウハウや情報力、技術を持った農家が生き残ったと考えている。</p> <p>花きは日々消費者の嗜好やニーズが変わる。バブルの頃は企業やイベントで花を利用する場面が多かったが、今は少なくなっている。今後は物日やプレゼント需要など工夫が必要である。そのため、業界関係者と意見交換を行い、よりの確な情報を生産者に提供したい。また、新規参入希望者を育成するなど花きの生産を増やしていきたい。</p> <p>今ここでズバリの目標数値は答えられないが、厳しい状況は打開したいと考えている。平成26年の大雪で花きも大打撃を受けた。品種によっては出荷に2～3年かかるものもあり、今は立て直しを図っている状況で、まずは復興、回復をしながら、さらにそれを発展していく状況にしていきたい。</p>

アドバイザー	質問内容	説明者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー	<p>花き園芸組合連合会という組織が、69名で構成され、事務局を会長宅に置くなどしているが、事務処理や経理、研修会なども含め、どんな運営をされているのか。</p> <p>県直営で企画されているが、研修会やイベントは業界団体が中心となり、それを応援するのが行政の役割だと思う。この事業もH9から20年経っているが、その間主体を団体に移すことができなかったのか。</p> <p>試験研究も含め、県が行うことと団体が行うことを分け、団体が自ら考え、企画し、それに対し行政が応援する体制にした方が良いのでは。</p> <p>33名の構成員で若手会ができるなど明るい兆しがあるが、運営はどうなっているのか。</p> <p>若手会もどこかの時点で自主的に運営できる方向に指導して欲しい。</p>	課長・原 昌司	<p>花き園芸組合連合会の事務局は、事務員の配置や専属の事務所を構える財政力が無いため、役員が力を合わせて事業の運営を行っている。全国組織があるので、そこで情報交換も行っている。この事業で行う研修会の参加、人集めなどに協力してもらっている重要な組織である。</p> <p>花きは共同出荷体制でなく、それぞれの農家が経営戦略を立て、個別に事業展開する状況になっている。統一組織で営農指導や販売戦略などの指導が他の分野に比べ難しい。花きの販売拡大対策として、県が開発した、収益性のあるクリスマスエリカやミニコチョウランの普及を図るには、地域の実情に合った技術指導を試験研究と普及が一体となり、県中心で行うことが必要である。</p> <p>団体も自ら商談会に出向き新たな販路の拡大や新商品を開発しブランド化するなど、自発的に行っているが、ご指摘のとおり、やり方を含め、検討していきたい。</p> <p>若さもあり自発的に活動は行っているが、運営は県の普及セクションがフォローしている。</p>